

令和7年度第4回府中市市民協働推進会議 会議録

- 開催日時 令和7年9月1日（月）午後2時から4時
- 開催場所 府中駅北第2庁舎3階 打合せ室
- 出席委員 青山会長、関根副会長、五十嵐委員、芝委員、柴原委員、高橋委員、田中委員、丹野委員、野原委員、花岡委員、和田委員
- 事務局 福嶋協働共創推進課長、加瀬協働共創推進課主査、本田協働共創推進課主査、小堀協働共創推進課主任、小池協働共創推進課主任
- 傍聴者 0名
- 議事内容
 - 1 報告事項
 - (1) 議事録について
 - (2) 検討事項の進捗について
 - 2 審議事項
 - (1) 答申案について

■会議録

○会長 これより第4回府中市市民協働推進会議を開催いたします。事務局から委員の出席状況などについて報告をお願いします。

○事務局 ご出席いただきありがとうございます。本日も机上のマイクを使って発言いただくようお願いします。本日欠席の委員はいませんので、定数11名のうち過半数の委員に出席をいただいております、本会議が有効に成立していることをご報告します。また、傍聴希望者はいませんでした。

○会長 ありがとうございます。続いて、事務局から配付資料の確認をお願いいたします。

(配付資料の確認)

○会長 ありがとうございます。会議録については事前に2回ご確認いただき、修正したものを会議資料とあわせて送付しましたが、追加で修正やご意見はありますか。議事録についてはこの後の報告事項の中で意見を聞きますので、まずは会議録についてお願いします。

(意見なし)

○会長 ご意見はないようですので、会議録については確定いたします。なお、前回の資料については一部で数値の修正があるとのことですが、答申案にも掲載される数値ですので、後ほど答申案を確認する中で事務局から説明いただき、そこで問題がなければ第3回会議の資料も修正したものを確定版として公開するよう手続きをお願いできればと思います。それでは、報告事項(1)と(2)に移りますが、本日は答申案に関する審議時間を十分に確保するため、議事録に関する話し合いは14時25分頃までとさせていただきます。ご協力をお願いします。それでは、事務局から説明をお願いします。

○事務局 説明します。

(報告事項1について、前回会議での意見を踏まえて議事録を作成した。構成としては、前回会議までに事務局が持ち帰った検討事項を「前回までの残件」として記載し、続けて審議事項ごとに、概要、決議事項、検討事項を記載した。なお、公式の記録としては会議録を作成しているため、議事録は非公開の参考資料とし、委員と事務局間の実務的な記録という位置づけで利用する。

続けて、各検討事項の進捗を報告。「前回までの残件」のうち、「回覧板を活用した自治会への協働に関する取組の周知」については、意見をいただくきっかけになった「市民協働・共創促進事業」の周知に関しては、実施主体となる企業や市民活動団体への周知を自治会回覧

よりも優先したが、この度「協働・共創の窓口」の課題である「自治会の加入率向上」に向けて、新たに連携を開始した明星大学の学生から解決策を提案いただく機会があった。内容は、市内の商業施設等にある電子掲示板に、若者が興味を引くような自治会クイズや、自分に合った自治会のメリットがわかる「自治会診断」などのコンテンツを載せるといったもので、実際に取り入れる予定のため、その件については自治会に直結する内容のため自治会への周知を優先する予定である。限られた財源と人員の中で、事業内容や対象、市全体に広く周知する場合や対象を限定して集中的に伝える場合など状況に応じて広報ツールを使い分けて対応していく。

続いて、「『市民協働・共創促進事業』審査件数の増加に向けた取組み」については、「協働・共創の窓口」に提案された事業のうち「市民協働・共創促進事業」としての実現が望ましい提案については12月の審査会に向け、引き続き関係課とのマッチングや、企業が集まるイベント等に足を運び本事業について説明するなど、提案実現に向けたサポートを個別に継続している。

前回の審議事項1、「市民協働の推進に関する計画（仮称）」（以下、計画）に関しては意見を参考にして作成した計画概要案をこの後の審議事項で報告する。

前回の審議事項2、「市民協働・共創促進事業」の審査員への事前説明の充実については、12月の審査会前に対応する。

前回の審議事項3、資料の数値修正等は、答申案で対応済のためこの後の審議事項で報告する。その他、推進会議からのフィードバック方法の再考、評価基準の明確化等もいただいた意見として答申案に含めたので、次回調査をする際に取り入れる予定である。

その他、「協働しよう。そうしよう。」のPR表現の改善については、この一か月では取入れるタイミングがなかったが、引き続き気づいた点があれば委員の視点で意見をいただきたい。）

○会長 説明が終わりました。議事録について何かご質問はございますか。

○委員 個人的に質問や意見を伝え、回答していただいた内容があるので共有していただけますか。

○事務局 議事録について、この検討事項も議事録に含めた方がよいのではないか、といったご意見をメールでいただいておりますが、一件ずつ共有する用意ができていませんので、改めて整理してご報告してもよろしいでしょうか。

○委員 内容としては、委員と事務局で共通認識を持ちながら進めるために議事録を作成していただきましたが、形だけの報告ではなくて、前回発言したとおり、市長がいて、市役所、委員がいるという上下関係があると思いますが、少なくともこの会議に関しては市役所と委員はフラットに協働していくものだと思います。そうすると、意見を参考にします、ご意見ありがとうございます、というだけでは事足りないと思います。双方が検討し、報告しあっ

ていくことが本来のこの会議の姿だと思います。何を考え、何をしてきたかを共有することが会議の充実につながると思います。そうすると議事録に書かれているものは粒度が粗すぎるのではないかと思います、もっと具体的に委員が意見したことに対して何をしたら進捗を報告していただきたいと思いました。例えば、自治会の件についても、もっと広いところで言えば、例えば防災や防犯も自治会のようなコミュニティがあってこそその活動だと思います。住民の出入りも多くありますので、市としてまたは民間としてもコミュニティ的な活動をする、その中で、いま協働ではこういうことをしています、と共有されていくものだと思います。ここで扱うものではないかもしれませんが、ベースとして自治会などの地域コミュニティの活動があって、積極的にされているところがあります。その一方で、マンションの管理組合などに入らない方もいますので、もっとコミュニティを広げましょうという中に、府中市でやっていることを情報共有できるベースのインフラみたいなものを作ることが協働活動のベースになると思います。情報を流しました、といった報告だけではなくて、もっと本質的なところへのアイデアを出せて、共有できるといいと思います。そういった面でこの議事録は粒度が粗いと思います。会議の時間は限られていますので、各々が持ち帰って、報告しあうのがよいと思い、議事録に書かれていない細かいところはどうなっていますか、というところを事前に質問し、回答いただいていたので、それを共有していただきたいという背景でした。

○会長 事務局から口頭で説明があったものの他に、個別の案件で何かやり取りがあったので共有したい、ということでしょうか。

○委員 個別というよりはもう少し粒度をあげていただきたいということです。具体的に意見をし、市が検討しますといったことについて、検討したのがどうか、どういった検討をされたのかその内容が聞きたかったということです。

○会長 事務局からいかがでしょうか。

○事務局 事前に意見をいただいていた件については、議事録に記載するにあたって意見の内容を要約や整理した部分があるので、その結果、粒度が低く感じられる書き方になったと思います。また今回の議事録には、事務局が対応や検討をした結果までは含んでおりませんが、先ほど口頭で報告した内容で、進捗を説明させていただいた所存です。今回説明した内容は次回の議事録に反映されますので、それを確認していただいたうえで、説明や対応が不足するようであればそこでご指摘いただき改善をしていきます。

○会長 ありがとうございます。今回口頭で説明いただいた内容は次回の議事録に反映されますので、そこで確認いただき、進め方に改善の余地があればご意見いただくということでよろしいでしょうか。

(異議なし)

○会長 自治会についても話が出ましたが、自治会連合会から補足などはございますか。

○委員 自治会は今多くの問題を抱えています。今度市長を交えて、自治会に関する考え方をまとめるための打合せをする予定ですが、自治会の要望を伝えて、それをどこまで受け止めてもらえるか、また我々としてもどこまで踏み込むか、ほとんどの自治会が共有している問題は多く、一つ一つ解決していかないと本当の意味の協働はできず、この会議の場で終わってしまっては勿体ないと思います。自治会の皆を納得させるのは難しいですが、よい自治会活動のための方策を検討していただけると助かります。

○会長 まさにこの会議では市民協働に関わる計画を作ろうとしているところなので、その中で自治会の活性化や自治会を市民協働の中に組み込んでいく道筋も含まれることになるかと思います。そうすればお二人の提案も生きてくるかと思います。他にご意見等はございますが。なければ報告事項は以上とし、審議事項に移ります。

審議事項(1)、答申案について、事務局から説明をお願いします。

○事務局 説明します。

(審議事項について、資料1「答申案」に基づき説明。会議で出た意見をもとに内容をまとめており、最終的に9月24日に正副会長より市長に手渡していただく予定のため過不足等があれば指摘をいただきたい。

1ページは「はじめに」として諮問内容を確認し、4ページからが本編である。

4ページからは「1. 令和6年度府中市市民協働の取組の進捗状況」についてで、前回の会議で出た意見を(1)～(3)の冒頭に記載した。「(1)第7次府中市総合計画『協働により推進したい取組』の進捗」においては、前回の会議資料から数値を修正した箇所と、それに伴い記載を修正した点があるため青色マーカーで示した。

6ページからは「(2)令和6年度に実施した協働事業」についてで、前回の意見を踏まえた修正点として、6、7、9ページの表中で前年度比マイナスの数値については三角の記号で示した。また9ページの「パブリック・コメント」については「意見公募」と補記した。

10ページの「(3)令和6年度『ファンファーレ』及び『価値共創促進事業』の評価」については、冒頭で議論いただいたヒアリングシートの改善について触れた他、各事業の評価結果をまとめて記載した。評価シートそのものは、参考資料8、9として添付した。)

○会長 ありがとうございます。長くなりますので、一旦ここで区切らせていただきます。

「1. 令和6年度府中市市民協働の取組の進捗状況」については前回ご報告した内容ですが、いただいたご意見はデータの後ではなく、前に記載する形式に変更しています。ここまでにについてご質問があれば伺いたいと思います。

○委員 3ページの目次について、「委員からの主なご意見」と表現されていますが、「意見」でよいと思います。

○会長 ありがとうございます。些細なことでも結構ですのでご意見をお願いいたします。なお、「ファンファーレ」と「価値共創促進事業」の評価結果は、本編に評価結果を記載し、評価シートは参考資料とすることで読みやすくしています。もしこれでよろしければ、計画に関する記載に進みますので、事務局から説明をお願いします。

○事務局 説明します。

(続けて、計画概要案について説明。

1 1 ページでは、第1回会議の資料をベースに「(1)計画策定の背景」について記載した。「参考②」のとおり、総合計画は「協働による各施策の成果」を重視することに対して、「市民協働都市宣言（以下、都市宣言）」、「市民協働の推進に関する条例（以下、条例）」、計画については、従来の協働推進体系と同様に「協働すること」を重視した内容としていく。

1 2 ページの「イ 計画策定の根拠」では、条例のうち今回の計画の策定根拠となる箇所を抜粋して記載した。「(2)計画の策定に向けた議論」では、決議いただいた計画策定期間及び計画期間についての他、基本方針から引き継ぐべき事項や、新たに盛り込むべき事項について議論し、「計画概要案」にまとめたことを記載した。

1 3 ページからの「市民協働の推進に関する計画概要案（以下、計画概要案）」は本日初めて提示する内容である。委員意見を踏まえて修正したうえ、答申に含めたい。

計画の仮称は「第1次府中市市民協働推進計画」とし、定期的に見直しが図られることを想定して「第1次」とした他、他の計画にあわせて「府中市市民協働推進計画」という単語を並べたものにした。来年度の早い段階で名称について決議し、来年度の答申案では「仮称」を外した「計画案」として答申いただきたい。

計画の対象者は、「施策実施者」を「市（協働共創推進課）」とし、「想定読者」については会議での意見を踏まえ、市民がこの計画を見た時に分かりやすく伝わるよう「市民等（市民、自治会、市民活動団体、学校、企業など）」と記載した。

目次については、第2回会議の資料で示した構成案と変更した部分がある。第1章は大きな変更はない。第2章は、労働人口の減少など図やグラフなどを用いて当事者意識を高めてほしいとの意見を踏まえ、市の現状分析や社会の動向について記載し、協働推進に関する取組と評価をまとめて「現状と課題」という章に変更した。第3章は、記載予定だった「これまでの取組と評価」を第2章にまとめ、計画の基本的な事項を記載するにあたって、章タイトルを「計画の基本的な考え方」とした。第4章は大きな変更はない。第5章には委員意見を踏まえ、推進体制を記載した。

本日議論いただきたい点は「検討事項」として記載した。「市民協働とは」という項目を、全体の構成の中でどの章に掲載していくべきかについてであり、以前実施した委員アンケート

で、基本方針から引き継ぐべき事項としてご意見の多かったものをリストアップしたものである。これらの項目を1つの章として記載するか、もしくは現在提示している章立てのいずれかの章に含めるか、どの位置にこの内容を掲載するのか意見をいただきたい。

14ページ「第1章 計画の策定に当たって」では、「(1)計画策定の趣旨」として計画策定の背景と目的を記載しており、委員の意見を踏まえて、この計画を見た市民が「市の協働の考え方を理解し、協働を自分ごととして捉え、主体的に実践するきっかけとなる」ことも目的として記載した。「(2)計画の位置づけ」では、都市宣言、条例、計画の位置づけを示す図から「各分野の協働を推進する」という右向き矢印を伸ばし、総合計画やその下に連なる分野別の個別計画にも協働という考え方を取り入れることで協働を推進していくことを示した。「(3)計画期間」は記載のとおりで、「(4)策定体制と手続き」には必ず実施する推進会議での議論とパブリック・コメントについてあげたが、委員意見を踏まえ、その他の機会でも市民意見を聴取できればと考えている。

15ページからの「第2章 現状と課題」には、市の現状や社会動向に関するデータを例示しているので、本日は他に分析した方がよいと思うデータがあるか意見をいただきたい。委員意見を踏まえ、図やグラフなどを用いて当事者意識を高めたい。

17ページ「(3)これまでの市の協働推進の取組と評価」では、これまで実施してきた施策を一覧化し、各事業に対する評価を示したいと考えているが記載の表はイメージ図のため評価等の内容については来年度議論いただきたい。

18ページ「第3章 計画の基本的な考え方」では、条例第6条「市の責務」にあたる①市民協働を推進するための啓発・広報、②市民協働に取り組む市民等への支援、③中間支援組織・協働のコーディネーターの育成、④市各課事業における市民協働の促進の4点を、「基本目標」として記載した。委員意見を踏まえ、施策の効果を検証するための数値目標についても計画の目標として示したいと考えているので、詳細については来年度議論いただきたい。

「(3)施策体系」は、計画の「基本目標」ごとに施策を分類し、ツリー上で計画の全体像を見せるページを設ける予定である。

19ページ「第4章 基本目標別の施策・指標」が計画の本体部分であり、施策についての説明や担当課、施策ごとの数値目標などの詳細を記載したいと考えているので、来年度素案を示したうえで議論いただきたい。

20ページには「第5章 計画の推進に向けて」として、委員意見を踏まえ、「(1)計画の推進体制」を記載した。施策の実行と評価は市、つまり協働共創推進課や、プラッツが実行し、その評価結果を市民協働推進会議に報告し、会議から改善策を助言いただく流れを記載した。また協働共創推進課は市民に対する啓発や支援等を行うだけでなく、市内部の各課に対しても啓発や支援等を行うとともに、各課に配置されている市民協働推進員等と協力して市民協働を推進していく体制である。進行管理については、「(2)計画の進行管理 (PDCA サイクル)」として記載した。ここまでが計画の概要案である。

21ページには第3回会議までに出た意見をまとめており、最終的な答申には本日出た意見も追加する。

最後に、23ページ以降の参考資料については前回までの会議資料として既に示したもので

ある。52ページの101番「府中市文化財を知る！ARガイド&AR街歩き」は、「協働・共創促進事業」の前身である「価値共創促進事業」で実施した事業だが「備考」欄への記載が漏れていたため追記した。

改めて、本日特に議論いただきたい点としては、計画概要案にのうち「市民協働とは」にあたる内容を計画のどこに記載するかと、「第2章 現状と課題」に記載する情報として他に記載した方がよい情報があるかどうかの2点である。）

○会長 ありがとうございます。これは、計画の骨格についてはこの方向で進めていくということを示す、現段階での進捗を報告する答申になりますので、実際に計画として策定するのは来年度になります。本日皆さんに議論いただきたい点としては、一点目が、13ページの目次のとおり全体の構成について、「市民協働とは」の部分を一つの章として独立させるか、またはどこかの章に含めるかどうかという点です。二点目が、15～16ページの「第2章 現状と課題」に記載する情報として、他に記載した方がよい情報があればご意見をいただきたいという点です。グラフも視覚的にわかりやすいように工夫していただいています。これについてもご意見があればお伺いできればと思います。なお、事務局からの審議依頼事項はこの二点ですが、他にもご意見があればお願いいたします。議論の前に、内容に関する質問があれば受け付けますがいかがでしょうか。

○委員 20ページの第5章「(1)計画の推進体制」に「市民協働推進会議で報告し、改善策を助言いただく」という表現がありますが、推進会議から市長へ出す答申なので「助言をもらう」でよいと思います。

○会長 主語が市であれば「助言をもらう」でよいと思いますが、この点、事務局としてはいかがでしょうか。

○事務局 13ページに記載のとおり施策の実施者は市になりますので、計画内の主語も市とし、「助言をもらう」に修正いたします。協働に関しては市と市民が対等に実施するものでもありますので、それを踏まえた表現に修正いたします。

○委員 15ページに協働の認知度について記載がありますが、この出典はどちらでしょうか。

○事務局 こちらは市が実施した市政世論調査の結果です。

○委員 対象は何名ですか。

○事務局 約1,500人に送付し、回答を得られた人数はそれ未満で、800人程度です。

○委員 対象はアトランダムですか。

○事務局 はい。無作為抽出です。

○会長 このグラフのみ出典の記載が無いようですので、追記をお願いいたします。

○事務局 承知しました。

○委員 図や表に通し番号はつけないのですか。

○事務局 最終的な計画では通し番号をつける予定です。

○委員 19ページの具体的な施策として4つの項目がありますが、4つ目の施策だけフォントが小さいです。

○事務局 修正いたします。

○委員 意味があると思われるかもしれませんが、修正をお願いいたします。また15ページからの「(1)市の現状と課題」についてですが、このページでは図示だけをするイメージでしょうか。

○事務局 計画概要案では図示のみですが、最終的な計画では、説明文も併せて記載する予定です。

○委員 どちらかというとその文章が大事だと思います。客観的なデータを掲載することは大事ですが、この後の議論内容もこれに基づくことになると思いますが、タイトルとして「市の現状分析」となっているにも関わらず、情報の掲載にとどまっていると思います。この図を見てどう考えるかまで書くことが分析だと思いますので、「分析」というタイトルにするのであれば考察まで記載し、そうでなければ「現状」というタイトルにした方がよいと思います。

○会長 ご指摘ありがとうございます。私としてはこの計画概要案はあくまでイメージであって、このデータに関する分析が実際の計画には記載されるものと思っていましたが、事務局としてはいかがでしょうか。

○事務局 本日は、この章の中にどんなデータを載せて分析した方がよいと思うか、そのネタについてご意見をいただき、のちに市として分析し、説明を記載したいと考えています。

○会長 わかりました。他に質問はございますか。

ご質問がなければ、本日皆さんに具体的に議論いただきたい点に移ります。一点目ですが、改めて答申案の13ページで計画の「目次」を見ると、第1章から第5章までの中にまだ入っていないものとして、「市民協働とは」にあたる内容があります。「検討事項」として「1. 用語の定義」から「7. 協働の事例」まで列挙されていますが、いずれも元々「市民協働の推進に関する基本方針（以下、基本方針）」に含まれていた内容であり、皆様からも計画に盛り込まれていた方がよいと意見をいただいていたと思います。これを目次でいうとどの部分に差し込むのがよいかを検討したいと思いますが、ご意見はございますか。

○副会長 「市民協働」という言葉の説明は、最初にその言葉が出てくる時よりも前にあるべきだと思います。目次で言うと第2章で「3. これまでの市の協働推進の取組と評価」が出てきますので、それよりも前、第1章と第2章の間あたりにあると流れとしてはよいと思います。しかし、その説明が長くなると読むのが大変なので、盛り込み方は検討が必要です。最後に「参考資料」も付きますので、そこで丁寧に説明する方法もあると思います。関連して、「第2章 現状と課題」の図表も一般の方が読むには大変なので、参考資料に回す方法もあると思います。分析の結果や問題点といった大事なポイントは、第2章の中で少数の図表を用いて述べ、詳しいことは参考資料にしてもよいと思います。何をどこに盛り込むかはボリュームがわからないと見えてこない部分がありますが、基本的には前の方で説明し、長くなる場合は後ろに回すのがよいと思います。

○会長 ありがとうございます。「市民協働」は全体に関わる概念なので説明はできるだけ前で説明するが、第1章は計画そのものの説明のため、その後に持ってくるのがよいのではないか、ただし詳しく説明しすぎるとわかりづらくなるため、ポイントに絞った書き方にし、詳細は参考資料に載せてはどうかというご意見でした。この考え方は他の章についても同様です。今のご意見について何かありますか。

○委員 答申としては、他の答申と類似する形式をとった方が市長にとっては読みやすいということがあると思います。一般的な書籍や論文などの形式とは違うのかもしれませんが、市民協働推進の計画なのであれば、市民協働とは何か、推進とは何か、計画とは何か、といった説明が冒頭でされるのは大前提だと思います。しかし、長々と説明があっても仕方ないので、1ページ、長くても1ページ半から2ページ以内に収め、書籍でいう「はじめに」や「序章」、「第0章」として本文が始まる前に記載し、知っている人は飛ばして読んでもいいかたちにするのがよいと思います。これを後ろに持って行ってしまうと、知らない人が第1章から読んだ場合に意味がわからなくなってしまいます。そういった意味では、第1章「計画の策定に当たって」も計画の定義ですので、「第0章」に当たるとはと思いますが、他の答申書がこういう形式なのであれば、このままでもよいと思います。グラフや図表に関しても、やはり考察や分析が重要なので、それがしっかり書かれていないとその後の話が通じないですが、その根拠となる資料は添付資料でも十分だと思います。そ

の方が、市長が読む際もポイントを押さえて読めると思います。「市民協働とは」については、全く知らない人もこの計画を読むことを想定して、冒頭で簡潔に説明するのがよいと思います。

○会長 ありがとうございます。大事なことなので冒頭で「はじめに」や「序章」としてポイントを絞って説明するのがよいという意見でした。

○副会長 第1章に「1. 計画策定の趣旨」がありますので、そこである程度説明されると思っていました。ご意見の出た「第0章」にあたる内容は、「策定の趣旨」の中でうまく回収される場合もあると思いますが、「第0章」にあたる内容が必要であることには賛成ですので、うまくまとめていければと思います。

○会長 ありがとうございます。お二人の意見をまとめると、最初に「市民協働とは」についてポイントを絞って説明した方がよいということでした。他の委員もご賛同いただけますか。

(異議なし)

○会長 ありがとうございます。事務局としてもよろしいですか。

○事務局 最終的な意見としては、第1章と第2章の間ではなく、第1章のまえに「序章」として説明するということがよろしいでしょうか。

○会長 そのとおりです。

○事務局 承知しました。

○会長 それでは、本日議論いただきたい点の二点目に移ります。

15、16ページの「第2章 現状と課題」についてですが、本日はこういう観点について記載したい、こういうグラフがあったらよい、という意見をいただき、その分析については観点が決まってから行うという方向性が先ほど示されたところです。

改めて、15、16ページを見ていただくと、「(1)市の現状分析」として4つのグラフが、「(2)社会の動向」として日本全体の動向が挙げられています。こうした現状を踏まえただうえで、市民協働に対する考えや計画といった具体的な話につなげていくこととなりますが、掲載する情報として、追加もしくは削除した方がよいと思うもの、掲載順などについて、ご意見をお願いいたします。

○委員 先ほども意見が出たとおりグラフには説明が必要だと思います。また「(1)市の現状

分析」の「外国人住民比率」については、国をいっしょくたにしない方がよいと思いますが、全部を載せるのは難しいので悩んだところです。国によってバックグラウンドや考え方、行動が異なるため、国を分けて書くことで意識できるかと思います。

「(2)社会の動向」についても日本全体の情報だと漠然として自分事に捉えにくいと感じますが、致し方ありません。SDGs については開発目標が 2030 年までのため、浸透してきました、という文章を載せる程度でもよいと思います。ウェルビーイングやダイバーシティ&インクルージョンといった言葉が出てきており、また次の目標が掲げられるのではないかと思います。「NPO 法人の認証数の推移」についても、何を示したいのか補足説明が必要だと思います。

○会長 ありがとうございます。「外国人住民比率」について国別の割合を見ていった方がよいということと、SDGs については 2030 年で目標の年が来てしまうので、SDGs に限らず国際的な目標を載せてもよいのではないかとということ、「NPO 法人の認証数の推移」については説明が必要だというご意見でした。

○委員 ここでは分析のための情報だけをあげており、説明は後からつけるとのことでしたが、そもそもどういう分析を想定してこれらの情報をあげているのか説明していただきたいです。将来の人口や協働の認知度のデータがあげられているのは何となく理解できますが、「外国人住民比率」を入れた理由を理解しておきたいです。「NPO 法人の認証数の推移」も同様です。SDGs については、ちょうどこの計画の前期も 2030 年までなので丁度よいとは思いますが、やはり「外国人住民比率」を入れたところで、どう協働活動とリンクさせようとしているのか、どういう考察をしようとしているのか意図をご説明いただきたいです。例えばオーバーツーリズムに関して府中市がどう対策するのか、観光客によって市が潤うためにどう協働していくのかということであれば、住民ではなく観光客の情報も入れるべきですし、住民といっても滞在している人なのか、帰化している人なのかで違いがあると思います。現状、どういう意図でこのデータを入れているのか教えてください。「NPO 法人の認証数の推移」も、社会貢献的な活動をしている団体を対象にしているのだと思いますが、企業でも社会課題を解決する企業は多い一方、府中市は起業数やサポートが少ないという体感もあります。そういう意味では、近隣他市との起業家数の比較なども社会動向に入ってきてよいと思いますが、あえて「NPO 法人の認証数の推移」にしている背景があれば教えてください。

○会長 事務局からご説明いただけますでしょうか。

○事務局 図表が入っているとなぜこのデータなのかと疑問に思われるかもしれませんが、図やグラフを用いてデータを示しながら現状を分析し、解決策を考えていくという進め方にしたいことを示すための例示としてあげていますので、現段階で分析して絞ってこのデータを載せているというわけではございません。例えばこういったデータがありますが、他に分析した方がよいデータがありますか、といった投げかけを本日はさせていただいております。

○会長 全体としてまだ生煮えの感じはしますが、グラフを用いて可視化していくこと自体はよいと思いますので、何のためにこのデータが必要なのかの一言をセットで考えることが大事だと思いました。この計画概要案はたたき台ですので、こういうイメージで作りたい、というものとして、来年度の最初の会議が始まるまでにはもう少し具体的に、何を示すためにこのデータを入れたのかまでわかるかたちで皆様にお示しできるとよいと思います。それから「NPO 法人の認証数の推移」ですが、これも何のために載せるのかを考えたときに府中市と近隣市が比較できるとよいという話も出ました。この点についても、やはり何を示すためのデータなのかまとめておく必要があります。

それから SDGs については目標年がこの計画とタイミングが合いますので、SDGs をあげることで自体は適当だという意見が出ましたが、SDGs も 17 の目標があり、すべてが必ずしも府中市に当てはまるわけではないと思いますので、どのゴールを特に大事にしたいのか、市民協働に関わってくるのかも明確化されるとよいと私自身は思います。

○委員 「外国人住民比率」は、コミュニティ協議会でも町会でも外国の方が増えていて、協働しなければいけない状況に今なってきていることから、必要なデータだと思います。

○会長 ありがとうございます。自治会や町会レベルで外国人住民との協働が必要との意見でした。

○委員 観光客のデータは不要だと思います。

○会長 オーバーツーリズムの関係ですが、観光に関わっている委員から意見はありますか。もしなければ、この件に関わらずご意見をお願いいたします。

○委員 市民協働はすごく広い概念ですので、何を課題にあげるのか、概念的に平たくあげるのか、それとも市民意識調査などを行って具体的にこんな課題があがっている、という課題を深掘りするのか、どういう方向で作るのがよいのか考えながら聞いていました。

18 ページで「計画の基本目標」として 4 つあげられていますが、そのうち重点的に取り組みたいものに寄せた課題を持つてくる方法もあると思います。目指すべき姿と現状とのギャップを埋めるための計画なのであれば、それと連動するよう、現状を平たく見るよりも、具体的な課題を見ていった方がよいのではないかと思います。しかし、これから新たに調査をするのは難しいと思いますので、現時点で結果が出ている調査で使えるものがあるのかどうか、考えていました。

○会長 ありがとうございます。事務局からいかがでしょうか。

○事務局 「現状と課題」の章では、計画の内容に繋がるような「課題」を抽出できるよう

な分析をするようにいたします。

○委員 自分が関わっている教育分野からの意見になってしまいますが、外国のお子さんの中には日本語を話さないと決めている子もいて、その子が都立高校に行くこともあります。ご父兄も含めて日本語で説明をしてもなかなか通じないこともありますので、そういう人の住民比率をのせることもありかと思います。地域住民に影響があるかはわかりませんが、お子さんが学校に通えていない場合や、両親がそろっていない場合もあります。しかし、掲載するのがそういった分析に偏ってしまうと市民協働の計画にはならないのではないかと思います、悩ましいです。

また社会の動向に関して言えば、SDGs やソサイエティ 5.0 といった切り口もあると思います。加速してどんどん変化している時代背景を資料として載せられたらよいと思います。

○会長 教育の観点と、急速に変化する社会に関する意見でした。すべてが市民協働の範囲で対応できるかどうかは別としても、考えていかななくてはいけない内容だと思います。

○委員 策定の目的には、協働の事業を主体的に実施してもらおうことがあると思いますので、現状に関する情報として、登録団体の数が推移していくグラフがあれば、それが上がっているから活動したい方も増えていることが示せるかと思います。

○委員 基本方針の20ページの図5-1を見ると、協働の相手先として市と市民、その他活動団体を示した図があげられています。このように、市と市民が連携すべき団体がわかっているのであれば、その団体が府中市ではどう推移しているのか、またその団体がどういった意見や提案をもっているのか具体的なことがわかれば、市全体で協働していることもわかってくると思います。せっかく、各主体同士が連携していきましょう、ということが書かれているので、この図をもう少し具体化させることで一般市民にとってわかりやすくなると思います。

○会長 ありがとうございます。基本方針20ページの図5-1ですが、関わる主体を示すにあたってもう少し具体的に数や経年変化の情報もあると、市民協働の実態が見えてくるのではないかと、という意見でした。

○委員 15ページ「市の現状分析」について、府中市では多くのイベントもあるので、実際に取り組んでいる活動を掲載すれば、府中市のよさが伝わると思いました。

○委員 前回も話しましたが、課題には今の課題と未来の課題とあり、別の視点を置かないと解決方法が見えてこないと思います。今の課題が喫緊の課題として計画の中心にはなっていますが、何か年計画として第1次、2次と続く計画でもありますので、市民が心豊かに暮らせるためには現状ではまだ問題になっていない課題も想定しないと、今の課題が解決し

た頃には別の問題が出てきていると思いますので、未来の課題も推定しておいてもよいと思います。目に見えない課題をどうやって見つけるかは、他市や自治体を見て、例えば観光客に関する問題はまだ府中市では起こっていないように感じますが、5年後には起こっていると思います。賃貸マンションを民泊にした結果、ごみや騒音の問題が起こっている市がたくさんあり、問題が起こってからでは対応がうまくいきません。府中市も観光を推進していくのであれば、あらかじめ手を打ったり、どうやって仲良くすればよいか考えたりする必要があります。また国籍のデータだと国際結婚の方も多いと思いますので、多面的にもの考えるのと、今の課題を中心に考えつつ、5年先の課題も考える視点を持つと、掲載するグラフについても推測を含めた考察も重要になってくると思います。

○会長 直近の課題だけでなく、起こりうる未来の課題も考える必要があるという意見でした。

○委員 市長が読む答申ではありますが、わかりやすい言葉、「協働で支えあう人とまち」など心に響く言葉があったらよいと思いました。いま地域は防災のことで動き回っていて、いつ何が起きるかわからないので皆が支えあっていかなくてならない時になっています。うまく協働が地域に根差すとよいと思います。

○委員 思ったことが3点あります。

1点目は単語ごとに考えるのがよいという点で、19ページでいうと市の「現状」とそれに対する「分析」、「現状」に対する「課題」、そして「未来」に対する「課題」と、質問に対して一つずつ答えていくのがよいと思います。今の話だと論点が混ざっているように感じました。今はブレストの段階なのでよいと思います。この資料に何を載せるかについては、最終的な課題はどことなく浮かんでいると思いますので課題を想定し、仮説を立ててデータを引っ張ってくる方法もあると思います。

2点目は、社会の動向については自明かつ、この資料では市の現状と課題、分析の方が重要だと思いますので、その中に含めてしまってもよいかと思いました。

3点目に、現状、分析、課題の中で気になるトピックとして、年齢構成が気になりました。具体的には、協働の認知度があって、その中で年齢構成にはどういったトレンドがあるのか、働いている現役世代は現実的には協働をしにくいかと思いますので、この方たちをどう巻き込むかも一つの課題と想定し、仮説を立ててデータを持つてくることもできると思います。

○副会長 私も社会の動向については市の現状に反映されてきている部分がありますので、繰り返しになるようであればなくてもよいと思います。書くのであれば、協働がなぜうまくいっていないのか、社会でも協働を推進していこうという動きにはなっているのになぜうまくいかないのか、働き世代の問題など、社会の中で協働はどうなっているのかについて書けないことはないかと思います。それを書いておけば、それを解決する施策にもつながるかと思います。

また、市の現状分析に関しては、具体的な課題を書くべきだと思います。先ほど委員から、どこまで書いたらよいのかといった発言もありましたが、いろんな領域や団体ごとに持っている困りごと、外国の方とのコミュニケーションや福祉現場での人手不足など、こういった困りごとが協働のきっかけになるものだと思いますので、もっとやるべきことがある、という現実を見せることは大事だと思います。ただし、書き方についてはくどくならないよう分量をみながら判断できるとよいですが、書く方向でよいと思います。

○会長 ありがとうございます。この資料は答申案ではありますが、最終的には計画として市民の方に読んでいただくものになります。この計画は、協働共創推進課の担当業務になりますが、各分野の協働を推進していくものですので、府中市全体における様々な分野で市民協働が行われるようにしていく、というものです。このつながりが非常に大事であると考えており、副会長がおっしゃったとおり、計画の中に色々な課題を書き込むことはそのとおりであり、市民協働の観点から様々な分野において、直近の課題もあれば未来の課題もあることを書き込んでいくことは非常に大事だと思います。その中で教育の話も出ましたが、私も日本語が十分にできない子どもたちがいることは大きな課題だと思っています。東京外国語大学の学生も府中市や調布市と連携して外国にルーツを持つ子どもたちの日本語学習を支援しています。少子高齢化で子どもの人口自体が減っている中では、市などのコミュニティがいかに未来に向けて再生産されていくかが根っこにある問題であり、その中心にある課題が教育だと思います。一部の子どもたちが教育から取り残されて大人になった時、それは社会の問題になるわけですから、課題が現実になる前にしっかりと日本語教育をし、日本社会のなかでコミュニケーションができるように育ってほしいわけです。そういったことを、実はすぐ目の前の課題ではありますが、未来の課題として取り上げることで府中市というコミュニティの再生産が可能になると思います。その中で市民協働は非常に大事なものと考えます。

15、16ページの現状と課題については皆様からの意見をうかがえたと思いますので、他に何か補足したいことがありますか。もしないようでしたら、全体としてご意見を伺いたいと思います。まずよろしければ、副会長から17ページについてご意見があるようですのでお願いします。

○副会長 17ページの「これまでの市の協働推進の取組と評価」について、これはあくまでイメージ図だとは思いますが、「D:廃止」はややきつい表現だと思いますので、あまり厳しく書きすぎない方がよいかと思います。

市民に見られていくことを考えると丁寧に作りこむことは大事だと思い、例えば20ページの「(1) 計画の推進体制」はすごくよい図ですが、市民が受け手である印象を受けます。市民協働とは、市民と一緒に頑張っていくということが伝わる方がよいと思います。

また14ページ「(4)策定体制と手続き」については推進会議の議論とパブリック・コメントだけだと形式的な印象ですので、色々な対象の領域へのインタビューなど、予算の都合もあるかと思いますが、そういった中から課題を抽出できるとよいと思います。

○会長 3点のご意見をいただきました。他にご意見はありますか。

○委員 おっしゃるとおり、20ページの「(1) 計画の推進体制」については、市民が協働の推進に関わることがわかるとよいと思います。以前の会議で、計画を伴走したり育てたりしていくのもありではないかといった発言したと思いますが、理想を語るのはだめなのでしょうか。難しいとは思いますが、そういうところも残せるとよいと思いました。

○会長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

○委員 これから作りこむ部分かもしれませんが、市民が何をするかに関しては、14ページの「計画策定の目的」内で「主体的に実践するきっかけとなるものとする」と記載がありますが、行政が頑張ることとして書かれていると思います。市民がどういう役割をもってやるかも、全体的にもっと書き込んでもよいと思います。

○会長 確かにこの計画自体は市が何をするかを示すものですが、やはり市民が主体的に何を行うかも書き込んだ方がよい、ということですね。

○委員 他自治体の計画も見たのですが、市がこのように推進していきます、という書き方の自治体もあれば、市民が主体的に活動し、行政が支援するという書き方の自治体もあります。例えば岐阜市のまちづくり推進計画があげられます。

○会長 市民協働において市民の主体性は重要ですので、そこに焦点を当てた書き方も検討してほしいという意見でした。他にいかがでしょうか。

○委員 17ページの評価について、記載されているA～Dの評価段階も例なのでしょうか。「評価」と言いながらも実際は継続するかどうか書かれており、うまくいっているからどうか「評価」であり、継続するかどうかはもう一つ先の欄になると思います。まず「評価」のA～Dのランクも再考し、「今後どうするか」とも欄を分けたらよいと思います。また、20ページの推進体制ですが、おっしゃるとおり市民が上から押されているように見えますが、これは市が責任をもって推進していくことを市の責務として示した図なのであればこれでよいと思います。しかし、これが答申書として委員が出すものとして考えると、市民と推進会議と、市役所含めてどういう体制でやっていくのか示す図にするか、もしくはこの図を生かすのであれば「計画の推進体制」ではなく「市の推進体制」などとすれば協働共創推進課を中心とした責務の図としてはよいと思います。

○会長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

○委員 21ページの委員からの意見のうち「計画に盛り込んでほしい内容」の「計画の背景」の中に「労働人口減少など統計データによる危機意識の醸成」とありますが、「危機意識の醸成」という表現だと言葉が強いように感じました。

同じく「用語の定義」のうち「市民の定義」についても、シティズンシップに関して「最初から持っているものではなく、教育して育てなくてはいけないもの」という表現は言葉が強いように感じました。

○会長 ありがとうございます。事務局で検討をお願いします。

○委員 先ほど私が意見した内容に関して、作り方をどちらにされたいかは行政側の意向があると思いますので、市民が見て参画したいと思わせる計画にする方法も、市の責務をしっかりと書き込んだものにする方法も、どちらもあり得ると思います。

○会長 ありがとうございます。どの視点で書くかで書きぶりも変わりますが、今回のたたき台をもとに今後検討していければと思います。時間も限られてきましたが、他にご意見はありますでしょうか。もしなければ最後に私からコメントをします。

まず18ページでは条例第6条に即して「計画の基本目標」が4点あがっており、12ページ「計画策定の根拠」では条例第6条の第1項が引用されています。「基本目標」の4つ目「市各課事業における市民協働の促進」は、第6条の第2項に当たるとと思いますので、第2項も引用するように修正してください。

次に、条例の書きぶり、計画の「基本目標」の書きぶりが食い違っている感じがしました。例えば、条例第6条第2項は「市は、事務事業の企画及び立案に当たっては、常に市民協働によるまちづくりの観点から検討するものとする。」という内容ですが、しかし計画の「基本目標」には「促進」という言葉が使われていますので、条例に書かれていない書き方をしていることが気になりました。事務局の考えを伺えますでしょうか。

○事務局 条例については市役所の各課全体が事務事業の企画や立案にあたっては常に市民協働によるまちづくりの観点から検討することとしておりますが、計画の「基本目標」については協働共創推進課の視点から各課が協働を検討するように促進する立場であることから「促進」という表現をしております。

会長 ありがとうございます。この表現で問題ないということが確認できました。

本日議題とする事項については十分に意見を伺えたと思います。補足がある方はいらっしゃいますか。ないようでしたら本日の審議事項は以上になります。改めて全体についてご質問等はございますか。よろしければ、最後に事務局から連絡事項をお願いします。

○事務局 本日いただいたご意見を踏まえて答申案を修正したのち、修正内容の確認作業について正副会長にご一任いただくか、もしくは委員全員にメールでお送りしご確認いただく

流れとするか、会長から委員にご確認いただけますでしょうか。

○会長 答申案の最終案の確認について、正副会長で確認するか、改めて皆様にメールで確認いただくか、いかがでしょうか。前者の案に頷いていただいていますので、ご異論ございませんでしょうか。

(異議なし)

○会長 ありがとうございます。それでは、最終案は正副会長で確認して市長に提出いたします。

○事務局 ありがとうございます。改めて、今年度皆様が一同にお集まりいただくのは最後です。お忙しいところ4回にわたりご協力いただきありがとうございました。なお、12月には部会がありますので、部会員の皆様は引き続きよろしくお願いいたします。

○会長 ありがとうございます。最後に何かご自身が所属している団体等からお知らせのある方はいらっしゃいますか。

(委員から事業等の紹介)

○会長 本日は以上で散会とします。皆様ありがとうございました。